

「北陸メディカル電波利用連絡会」を設置 ～ 医療機関での安心・安全な電波利用に向け関係者の知見を集約 ～

医療機関では、患者のバイタルデータ（血圧や脈拍などの生体データ）を遠隔監視するための医用テレメータ、ワイヤレス・ナースコール、無線LANなど電波を使った機器の利用が拡大しています。一方、機器相互間の混信や必要な場所まで電波が届かないなどの障害が発生する可能性があり、電波利用環境の整備が課題となっています。

電波を利用した医用機器を支障なく導入・運用するためには、医療機関における電波利用機器の利用実態と課題を把握し、安心・安全な電波利用の知見を広めていくことが重要です。

総務省北陸総合通信局（局長 濱島 秀夫）は、医療機関における電波利用機器の安心・安全な利用の推進を図るため、医療関係者、医療機器製造販売事業者、ICT関連事業者を構成員とする「北陸メディカル電波利用連絡会」第1回会合を平成29年9月29日（金）に開催しました。

冒頭、濱島局長は、(1)IoTが新たな価値を創出し社会生活の利便性向上性に期待されるなか、あらゆるものがネットに接続され電波は必要不可欠なインフラ。(2)医用サービス効率化、高度化のため電波を使った機器の利用がますます拡大。(3)電波利用機器の周波数設定、機器配置の配慮を怠ると混信の発生、通信の途絶など、医療サービスに重大な支障をきたす恐れ。(4)本連絡会を院内の適正な電波利用の推進に繋げていきたいと挨拶しました。

続いて、総務省総合通信基盤局電波部の近藤玲子電波環境課長は、(1)医療現場で無線機器が増えて、トラブル事例も発生しているため、関係者が一堂に会して議論できることは重要。(2)電波利用ベストプラクティス、ヒヤリハット事例の収集にご協力頂きたい、混信事例も含め、安全な電波利用について学んでいただいているよう、eラーニングコンテンツを作成し、皆様方に活用いただけるよう配布したいと挨拶しました。

連絡会の規約に基づき、福井大学医学部附属病院の山下芳範医療情報部副部長が座長に選出され、（公社）日本臨床工学技士会の高道昭一常任理事が座長代理に指名されました。

議事では、(1)2.4GHz無線LANの電波を医療機器（輸血ポンプ、電気メス、心電計、補助循環装置）に密着して照射した実験ビデオを視聴し影響を確認、(2)今後の取り組みとして医療関係者を対象とする課題解決に向けたワークショップの開催と取り扱う課題等を抽出するためのアンケートの実施、(3)優良事例やヒヤリハット事例の情報提供の協力を確認しました。

構成員からは、(1)患者が病院でWi-Fiを使う場合など全国的な考え方を示して欲しい。(2)病院の職員が全てのことを知ることは難しい状況、電波の利用に必要な情報を得られる機会が必要。(3)MRIについて高周波利用設備の知識が不十分であったとの意見がありました。

北陸総合通信局では、医療機関における電波の安全性に関する正しい知識の普及と安心して安全な電波利用環境を確保するため、12月に富山県、2月に石川県で「医療機関における電波の利用環境・安全性に関する説明会」の開催を予定しています。

併せて、当連絡会ではワークショップの開催を検討します。



【近藤電波環境課長】



【山下座長】



【高道座長代理】



【連絡会の様子】
（場所：北陸総合通信局会議室）

＜お問い合わせ先＞
無線通信部監視調査課 電話：076-233-4441